石塔婆としての宝篋印塔について

斎　木　　勝

目　　次

はじめに ……465

1．埼玉県内における宝篋印塔の様相 ……465

2．群馬県内における宝篋印塔の様相 ……467

3．銘文からみた宝篋印塔の様相 ……468

4．宝篋印塔の各部分の時代的変遷 ……473

5．石塔婆の時代的変遷 ……476

おわりに ……480

はじめに

当文化財センター『研究紀要』第10号に、関東型式宝篋印塔の研究を発表した。当時、石塔婆に興味をもっており、板碑、五輪塔、宝塔と各地にそれらを訪ねていたが、資料的にもまとまりつつあった宝篋印塔について取り上げてみた。発表後、先学の目に止まり内容について種々訂正していただき、また、指摘もされた(1)。特にそれに従ったわけではないが、多少とも資料の捉え方に変化を来たしたので、宝篋印塔を主に石塔群について改めて論じてみたいと思う。

年令を加えるにつれ、人々の死に接することが多くなり、その葬祭儀礼とともに供養することの本質的な意味やその行為について考えるようになった。死はなかなか理解することのできる事象ではないが、遺体を納棺したり、また、火葬後の拾骨を経ても私には供養するという形はまだまだ心のなかに結ばない。死というものは肉体を腐らせることから、屍体への恐怖感、あるいは嫌悪感が強くおきる一方で、残された者の悲しみとともに死者への愛惜の気持ちがあるといった、矛盾を生ずるのである。葬祭儀礼はこういった思いをどう整わせるかで展開されてきたのではないだろうか。

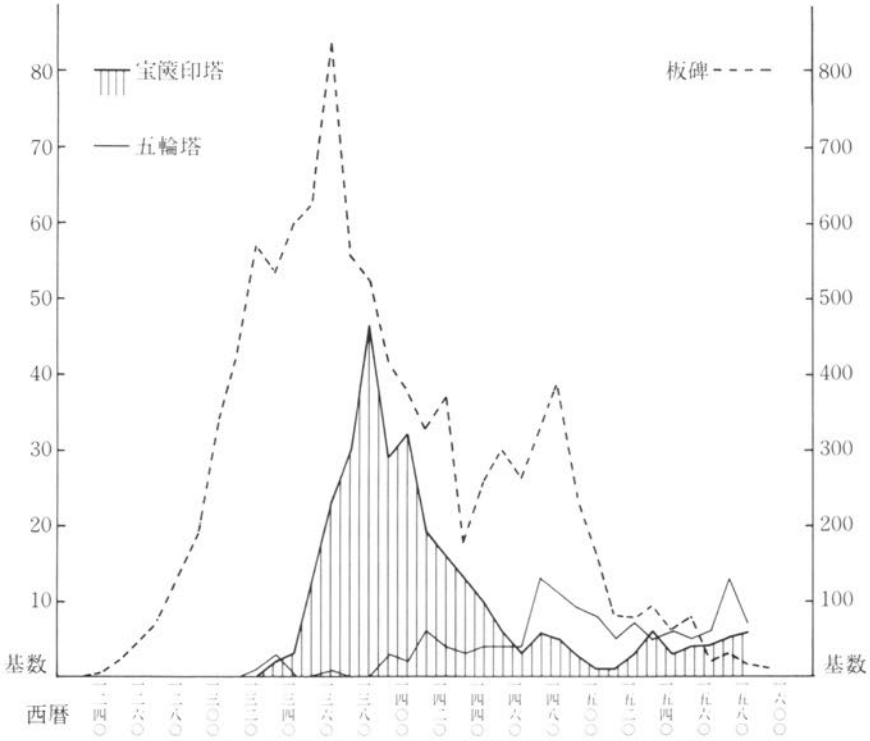
また、仏事供養の一連の経過の中で供養するという気持ちの現れを塔婆に託すのであろうが死を確認する行為の中でまず親族知人の集合、接見、導師の法会、講説、朗誦、施物の奉施などを行い、塔婆の設置を迎える。塔婆は現在でも形式化したひとつの形状でしか有り得ない。あるいは、単なる標識物ともとらえられるが、そこには現実に死があり、また、悲しみがあり何かしかの葬祭が執行されていたのであろう。そういった数限りない死の形の中で供養的行為の具現した形が塔婆なのである。

1．埼玉県内における宝篋印塔の様相

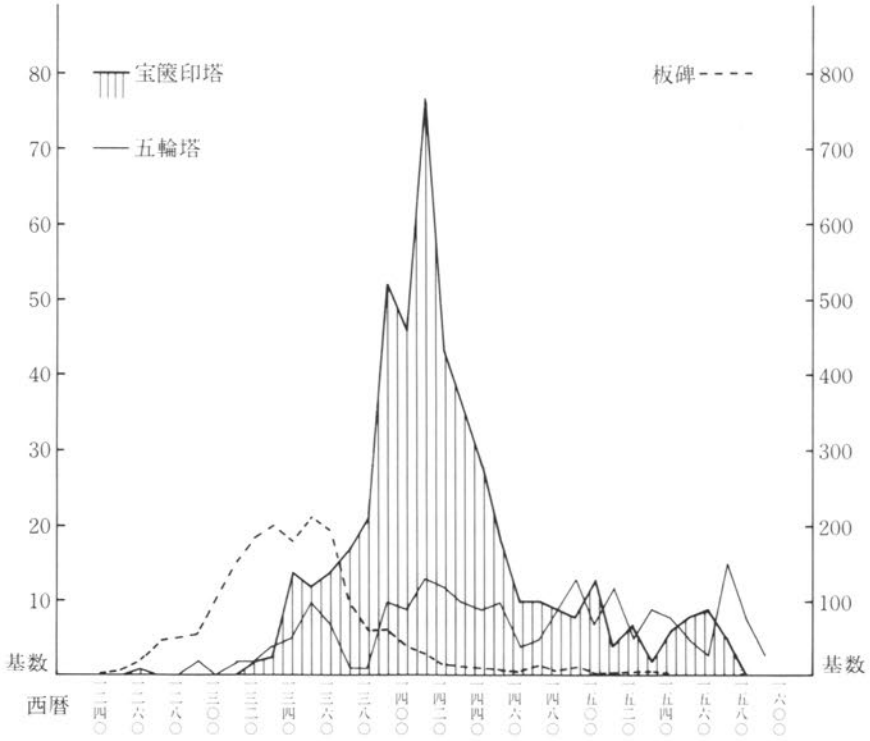
第1図は埼玉県内における宝篋印塔の造立数の変化を、武蔵型板碑と五輪塔の基数の推移を掲げながら表示したものである(2)。

板碑の造立数は、他の石塔に比べ突出しているので、右側の縦表示で数百基の単位とした。宝篋印塔と五輪塔は左側の縦表示の数十基の単位である。また、数量的には10年単位の総数とした。

前稿(3)では、五つの時代区分を示した。1330年頃から1380年代の50年間は造立数は横ばいとみていたが、今回、新しい資料を検討した結果として1355年頃よりの延文、貞治、応安、永和年間と急激に造立数を増やしていくことが、指摘できる。その他は、前稿との内容と多少異なるが、ほぼ同様の事項を指摘することができる。



第１図　埼玉県内における宝篋印塔造立数の変化



第２図　群馬県内における宝篋印塔造立数の変化

造塔のピークは、永徳、至徳年間の1380年代、その後の応永、永享、文安年間にかけての急激な減少、長禄年間から天正(1573～1592)年間にかけての数基に至るのである。武蔵型板碑と比較してみると、総基数において板碑の５％の造立ということが指摘できる。

板碑の造立推移をみると最古の板碑は埼玉県大里郡江南村所在の嘉禄３(1227)年銘の阿弥陀三尊画像板碑であり[4]、その後、1300年までゆるやかな増加を示すが、嘉元・徳治・延慶年間頃より急速に増加する。そして、1360年代にピークを迎え、1430年代にかけて急速に減少し、また増加傾向を示している。その後は若干の増減を繰り返しながら1600年代には全く造立されなくなる[5]。ただ、その年代的差は約60年、板碑造立の変遷が先行している。

宝篋印塔と板碑は各々造立数が増加する時点の年代差は約60年であるが、板碑がピークを迎えた康安、貞治年間に、宝篋印塔は増加の傾向を示している。

また、板碑は1430年頃に造立数の少ない期間がある。1440年から1500年頃にかけては造立が多い。この様相は宝篋印塔とは異なることである。この点は、板碑の結衆化、また、墓碑化したことによる造立数の増加、その背景には板碑の商品化が一段と進み、規格化された小型板碑が流布したことにもよるのであろう。

宝篋印塔と五輪塔の造立推移を比較すると、五輪塔の初現は宝篋印塔よりわずかに早い鎌倉時代後期の単独的五輪塔は確認できるが、総体的に少ないまま1460年代を迎える。その後、宝篋印塔の造立より五輪塔の造立が上回ることが確認できる。これは、板碑の増加傾向と呼応しているのであろう。石塔の墓碑化による事象なのであろう。

２．群馬県内における宝篋印塔の様相

第２図は群馬県内における宝篋印塔の造立数の変化を、板碑と五輪塔の基数の推移と比較しながら表示したものである[6]。

板碑は埼玉県に比べ造立数は多くないが、第１図の埼玉県の状況と比較する意味で宝篋印塔基数の１/10表示を踏襲した。

造塔のピークは、応永年間の1410年代、その後、永享年間から永禄年間にかけての急激な減少、1460年代から1560年代の多少の増減傾向、1580年代にはまったく造立されなくなる。

板碑の造立推移をみていると、初現は前橋市小島田町大門跡所在の仁治元(1240)年銘の阿弥陀如来坐像板碑である。その後、1290年代まで徐々に増加を示し、嘉元、徳治年間より増加する。この傾向は埼玉県下の状況と同様である。そして、1330年代には１回目のピークを迎え、1340年代に僅かに減少傾向を示すが、再び1350年代に２回目のピークを迎える。その後、1380年代にかけて急速に減少したのち、1460年代にかけて徐々に造立数を減少させていく。

宝篋印塔と板碑の造立数の推移は、板碑の減少期に入った1370年に、宝篋印塔は急激な増加期を迎えていることは埼玉県下の状況と若干異なる様相である。これは単に板碑造立者が板碑から宝篋印塔に供養塔としての機能を求めたという指摘もあるが[7]、まだまだ、深く検討を加えるべき事項のひとつと考えている。

宝篋印塔と五輪塔の造立推移を比較すると、五輪塔の初現は、宝篋印塔より約30年遅れた正応6(1293)年である。その後、造立数は少ないまま、1350年代にピークを迎える。1370年代にはきわめて少なくなり、その後、1390年代には10基と回復するが、若干の増減を示しながら、1450年代まで至る。在銘五輪塔のみの判断は性急さが感じ取れるが、その後1590年代にかけて増減を繰り返している点は宝篋印塔の様相と同様である。

埼玉県と群馬県において、今回、石塔婆の悉皆調査の資料編が刊行されたので資料とした[8]。在銘資料のみによる論考は、ある面では大変危険な推論に発展しやすいが、紀年銘をひとつの指針とした。それにより、宝篋印塔の造立数の変遷を比較してみると、数基の単独的造立もあるが、ほぼ、初現を1320年から1330年代にすることが可能である。その後の推移は埼玉県内は1380年代にピークを迎えるのに比べ、群馬県下では何回かの増減を繰り返しながら1410年代にピークを迎える。その30年の差があることは、荒川水系の埼玉県長瀞に原産地をもつ緑泥片岩製の武蔵型板碑[9]の造立が石塔婆造立に多大な影響を与えているからであろう。

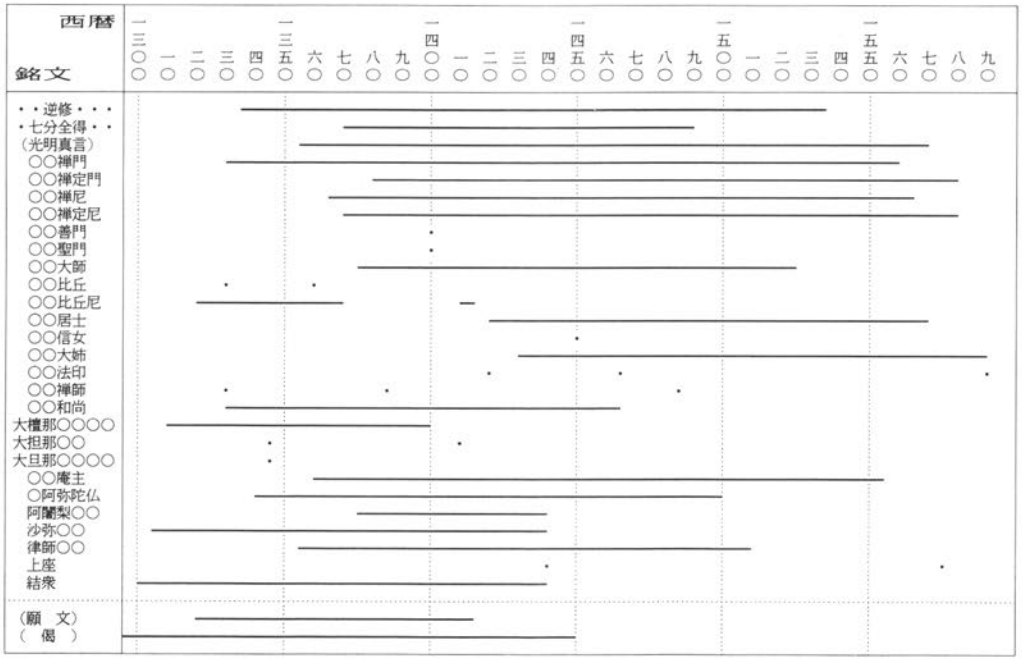
3．銘文からみた宝篋印塔の様相

（1）宝篋印塔造立の趣旨

石塔婆を造立することは、何らかの目的が込められていることは自明のことである。したがって、その造立の趣旨を求めるためには、刻まれた銘文が手掛かりになることは言うまでもない。

今回、前稿の資料に加え基本的な資料とした埼玉県内の314基、群馬県内の491基の宝篋印塔について、その銘文の初現また終末の確認をした上で銘文の変遷図を表してみた（第3図）。

まず、確認できる銘文で多かったのは、「・・逆修・・」である。これは、造立者が生前に自分の極楽往生を願って、あらかじめ仏に対して供養することである。また、「・七分全得・」も生前に死後の供養を行うことで逆修を勧める意味をもつ言葉である。その功徳は死んでから遺族が造立してくれても功徳のわずかしか死者に至らないが、逆修しておけばその功徳のすべてが自分のものになるということである。時代変遷をみると、1334年～1536年の約200年にわたって確認でき、また、「・七分全得・」も確認できる時代は短いが、その変遷の中に含まれる。



第３図　宝篋印塔銘文変遷図

（２）宝篋印塔を造立した人々

宝篋印塔に刻まれた供養者名は、そのほとんどは類型的な法名で表される。それをまとめたものが第１表である。本来は、信者が各人の信仰の内容や得度によって受けることのできる称号なのであるが、宗派によって法名の命名の違いがあるという。

宝篋印塔の銘文上で最も多く確認できる法名は、男性では「〇〇禅門」で147例、次いで「〇〇禅定門」の63例、「〇〇善門」、「〇〇聖門」は同系の法名と思われる。女性では「〇〇禅尼」の86例、「〇〇禅定尼」の12例があげられる。以上で310例を数え、供養者全体の約40％を占めている。「〇〇禅門」は「〇〇禅定門」、「〇〇禅尼」は「〇〇禅定門」の略であり修行を経て授けられ、仏様の弟子であることを証する戒名の一種である。この時代、武士か在俗出家した場合の法名とみられる。14世紀初めから時代を通じ、16世紀の後半まで用いられている。

「〇〇大師」は14世紀の後半から16世紀の前半にかけて確認される。

「〇〇比丘」、「〇〇比丘尼」は出家し、具足戒をうけた修行僧、また尼僧をいう。1320年代から1410年代にかけての宝篋印塔に確認される。

「〇〇居士」、「〇〇信女」、「〇〇大姉」は在俗の仏教信者の戒名につけた称号で、15世紀前半より16世紀にかけて認められる。

「〇〇法印」、「〇〇禅師」、「〇〇和尚」は、僧位の一つと判断される。共に時代を通じ認め

られる。

「大檀那○○」、「大担那○○」、「大旦那○○」は同じ法名であり、信徒を指す。初現は徳治3(1308)年銘の鎌倉市安養寺塔であり[10]、14世紀に主に認められる。

「○○庵主」は僧庵の主人といったような意味であり、全体で17例を認め、14世紀中頃より16世紀の中頃まで認められる。

「○阿弥陀仏」は13例を数え、14世紀中頃より15世紀末まで認められる。

「阿闍梨○○」は称号として用いられており、14世紀後半から15世紀前半にかけて認められる。

「沙弥○○」は出家しているが、まだ一人前の僧侶ではない者を指す。しかし、中世では武士の在俗出家者が名乗る場合も多かった。初現は鎌倉市大町所在の安養寺塔[11]に認められる。

「律師○○」とは、僧尼を統領する官職であったものが、称号として用いられるようになった。10例確認され、14世紀中頃より16世紀初めにかけて用いられる。

銘　文	埼玉県（314例）		群馬県（491例）	
…逆修…	77例	初現－貞和5(1349)年，終末－天文5(1536)年	178例	初現－正慶3(1334)年，終末－大永(152？)年
‥七分全得‥	6例	初現－永徳2(1382)年，終末－應永19(1412)年	4例	初現－貞治7(1368)年，終末－長享3(1489)年
（光明真言）	37例	初現－延文2(1357)年，終末－文明15(1483)年	8例	初現－永和5(1379)年，終末－永禄12(1569)年
○○禅門	77例	初現－延文2(1357)年，終末－永禄2(1559)年	70例	初現－嘉暦4(1329)年，終末－永禄5(1562)年
○○禅定門	35例	初現－永和4(1378)年，終末－天正7(1579)年	28例	初現－永徳3(1383)年，終末－元亀3(1572)年
○○禅尼	16例	初現－貞治5(1366)年，終末－享禄4(1531)年	70例	初現－応安8(1375)年，終末－永禄11(1568)年
○○禅定尼	7例	初現－応安3(1370)年，終末－天正11(1583)年	5例	初現－應永19(1412)年，終末－天文15(1546)年
○○善門	0例		1例	初現－應永4(1397)年
○○聖門	0例		1例	初現－應永6(1399)年
○○大師	2例	初現－明徳5(1394)年，終末－大永3(1523)年	6例	初現－永和3(1377)年，終末－長禄2(1458)年
○○比丘	2例	初現－延文3(1358)年	0例	
○○比丘尼	4例	初現－元亨3(1323)年，終末－応安3(1370)年	2例	初現－應永18(1411年，終末－應永25(1418)年
○○居士	3例	初現－天文8(1539)年，終末－天正元(1573)年	3例	初現－應永25(1418)年，終末－永禄11(1568)年
○○信女	0例		1例	初現－宝徳4(1452)年
○○大姉	7例	初現－正長2(1429)年，終末－天正17(1589)年	7例	初現－享徳2(1453)年，終末－永禄5(1562)年
○○法印	1例	初現－天正13(1585)年	2例	初現－應永24(1417)年，終末－応仁元(1467)年
○○禅師	2例	初現－嘉暦3(1331)年，終末－至徳3(1386)年	1例	初現－文明17(1485)年
○○和尚	5例	初現－元徳3(1331)年，終末－長禄5(1461)年	1例	初現－大永2(1522)年
大檀那○○○	1例	初現－元亨3(1323)年	5例	初現－暦応4(1341)年，終末－應永4(1397)年
大担那○○	0例		2例	初現－貞和3(1347)年，終末－應永17(1410)年
大旦那○○○	0例		1例	初現－貞治3(1347)年
○○庵主	11例	初現－應永2(1395)年，終末－大永4(1524)年	6例	初現－康安元(1361)年，終末－弘治3(1557)年
○阿弥陀仏	3例	初現－観応2(1351)年，終末－応仁2(1468)年	12例	初現－暦応2(1339)年，終末－文亀3(1503)年
阿闍梨○○	3例	初現－応安8(1375)年，終末－永享13(1441)年	3例	初現－明徳5(1394)年，終末－應永31(1424)年
沙弥○○	7例	初現－元亨3(1323)年，終末－永享10(1438)年	8例	初現－暦応4(1341)年，終末－永享3(1431)年
律師○○	5例	初現－文和3(1354)年，終末－文明3(1471)年	5例	初現－明徳3(1392)年，終末－永正5(1508)年
上座	1例	初現－天正3(1575)年	1例	初現－永享10(1438)年
結衆	21例	初現－延文5(1360)年，終末－永享(143？)年	21例	初現－康永3(1344)年，終末－嘉吉3(1443)年

第1表　宝篋印塔銘文初現・終末一覧表

「上座」とは、徳のすぐれた修行僧、あるいは教団の長老を称した。2例にとどまり永享10年と天正3年の2例が確認される。

「結衆」を銘文に刻み込んだ、宝篋印塔は42例を数える。初現は神奈川県足柄上郡大井町所在の余見塔の嘉元2(1304)年銘の宝篋印塔である[12]。15世紀の中頃まで続いて確認される。

その他、身分を示す資料としては、渋川市金蔵寺所在の康永2(1343)年銘塔[13]の銘文中の「源義秀」、また、群馬県新田郡常楽寺跡所在の康永3(1344)年銘塔[14]の銘文中の「大中臣光重」、同じく「大中臣實吉」などがあげられる。これらは、明らかに武士階級を示している。宝篋印塔の造立者は、その多くが武士階級であったと言っても過言ではない。

(3) 偈

偈とは経典等にある詩文で、仏の教えや仏教の基本を述べたものである。偈を刻まれているのは10基で全体に占める率は、1.2%である。その種類は埼玉県内の宝篋印塔では9種、群馬県内の宝篋印塔では1種である。なお、埼玉県内の板碑では、95種確認されており、全体に占める割合は5.3%と報告されている[15]。

順に全文と出典をあげると以下のようになる。

1「十方佛土中　唯有一乗法　無二無三　除佛方便説」宝篋印塔資料集(補遺)18　延文5(1360)年、法華経方便品第二

2「願以此功徳　普及於一切　我等与衆生　皆共成佛道」宝篋印塔資料集(補遺)52　応安8(1375)年、宝篋印塔資料集(補遺)70　永和5(1379)年、法華経化城諭品

3「若有聞法者　無一不成仏」宝篋印塔資料集(補遺)70　永和元5(1379)年、法華経寺方便品

4「応無所在　而生其心」宝篋印塔資料集(補遺)70　永和5(1379)年、金剛般若経

5「若人欲了知　三世一切佛　応当如是観　心造諸如来」宝篋印塔資料集(補遺)89　至徳3(1386)年、華厳経夜摩天宮菩薩説偈十六

6「諸行無常　是生滅法　生滅々己　寂滅為楽」宝篋印塔資料集(補遺)89　至徳3(1386)年宝篋印塔資料集(補遺)38　文安4(1447)年、涅槃経

7「光明遍照　十方世界　念仏衆生　接取不捨」宝篋印塔資料集(補遺)116　康応元(1389)年、宝篋印塔資料集(補遺)169　應永12(1405)年、群馬県222　應永21(1414)年、観無量寿経

8「十方三世佛　一切諸菩薩　八方諸聖教」宝篋印塔資料集(補遺)139　應永5(1398)年、浄土教古徳之偈

9「於我滅度後　応受持斯経　是人於佛道　決定無有疑」宝篋印塔資料集(補遺)181　應永17(1410)年、法華経如来寿量

このうち、2の「願以此功徳　～　皆共成佛道」の法華経化城諭品からの偈文は、箱根の箱根山塔[16]や興福院塔[17]などにも認められる。

年代的な広がりは、永仁4(1296)年から文安4(1447)年に造立された宝篋印塔に偈は認められ、13世紀最末期から15世紀の中頃というような時代の長さがある。関東においては宝篋印塔造立とともに、石塔の銘文に偈を用いてその信仰の拠り所にしていたことが理解される。

(4) 願文

宝篋印塔に願文を刻むのは、埼玉県内は17基(稿未の宝篋印塔資料集(補遺)別掲)、群馬県内は15基の合計32基である。埼玉県内の資料は資料番号で13、14、21、29、33、37、40、48、65、79、100、103、113、116、140、181、193である。ここでは群馬県内の15基を以下に示す[18]。

1　右為千部経供養」奉造立寶篋塔一」基」結衆六人僧□十二人　暦應4(1341)年

2　右志者為過往」源義秀聖靈」乃至法界平等也　康永2(1343)年

3　右造立志者為光明」真言別時結衆三十」二人各々逆修善根」乃至法界平等利益也　康永3(1344)年

4　右志者為過去慈父悲母」之幽儀乃至法界衆生」平等利益也　康永3(1344)年

5　右志者為千部經」供養也大中臣光重」敬白　康永3(1344)年

6　右奉造立寶」篋塔一基奉」書寫妙經三」部仍逆修如件」願主大中臣實吉　貞和2(1346)年

7　右志者一結衆中」八一成得山合力」造立石塔祈一」妙衆□沼龍王」□□□八幡白山　貞和2(1346)年

8　右意趣者為」法界平等□　文和4(1355)年

9　右為亡父」蓮光卅三」年也　延文2(1357)年

10　右□」法益」法性」靈」諸尊靈」頓證□」乃至法界」衆生平等」利益也　延文5(1360)年

11　右志者為」慈父悲母」奉造立□」塔一基」立聖靈□」佛□道□　康安元(1361)年

12　右為一結衆四十余人現當」二世祈願円滿成佛得道」乃至法界衆生平才利益也　應安元(1369)年

13　右意趣」諸生　諸檀」那等　敬白　應安4(1371)年

14　謹奉造立」石塔婆為」諸位檀越」一結諸衆」現世安穏」後生善處」有縁無縁」諸有情類」見佛聞法」同證佛果」及以法界」平等利益　永徳4(1384)年

15　右意趣者」過去□岩」喜公庵主　應永14(1407)年

願文には、石塔や仏像などを造立した際にその願いの趣旨を述べたり、また、故人のために作善追福を営む施文の願意を述べた銘文などがある。

群馬県内の15基でみると、宝篋印塔ないしは石塔を造立して期待する願いを託したものは、

番号で、1、6、7、14の4基、追善供養をあらわすものには、2、4、9、11があり、2、4、11は慈父悲母の供養の為の造立である。

年代的には暦応4(1341)年から應永22(1415)年に造立された宝篋印塔に願文は認められ、宝篋印塔が最も数多く造立された時期に並ぶ。

以上のように銘文から造立趣旨をみることにより、塔としての位置づけも変遷がある。造立者の生前供養として建立する逆修塔は、時代を通して造立されている。対象となる教典や仏の供養を目的とした広い意味の供養塔は、宝篋印塔という塔形が確立された当初よりみられ、変遷上は15世紀中頃まで確認できる。それは、仏の教えを詩文等に託してある「偈」を刻む塔の確認から考えられる。

1450年代になると宝篋印塔の造立も急減し、石塔としての趣旨は変化してくる。銘文からは「○○居士」、「○○大姉」、「○○法師」の法名が確認されるようになり、墓塔としての造立が明瞭になる。また、館山市竹原光堂の弘治3(1557)年銘塔及び永禄銘塔のように、仏像をレリーフとして刻むことにより勧進し、その下に法名を刻む形式もある。

4．宝篋印塔の各部分の時代的変遷

(1) 反花座

宝篋印塔の反花座の反花に着目し、形式分類して時代的変遷についてみてみたい(第4図)。まず、反花は素弁と単弁と複弁に分けられる。素弁は蓮弁の輪郭や葉脈の刻線もしくは稜線を配するか何も表さないのである。単弁は、蓮弁の弁中に子葉1個を配するものであり、複弁は子葉2個を配するものである。複弁には、隅部分を除いて正面に、二葉、三葉、四葉、五葉がある。単弁は、現状で確認されている石塔としては、神奈川県の余見塔[19]と円光寺塔[20]が挙げられる。年代的に嘉元2(1304)年頃で宝篋印塔としても初発期のものである。

その後、規格的にも多くの石塔が輩出する1330年代にかけて、複弁の二葉、三葉、四葉、五葉の各形式が確認されている。上面に蓮弁を刻むについては、規模が大きくなれば葉数が増えることである。

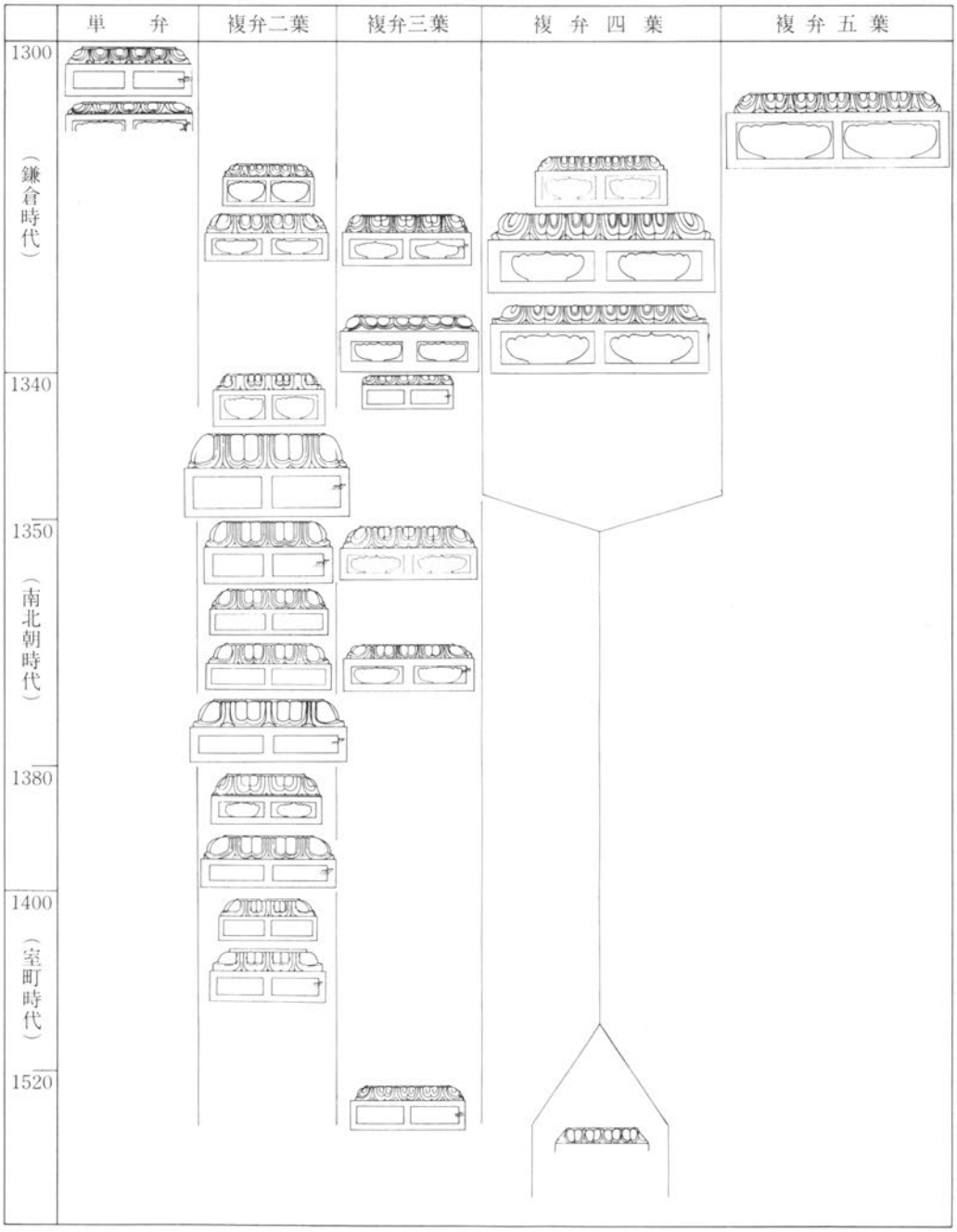
造立数が爆発的にふえていく1350～1380年代に、複弁二葉あるいは複弁三葉が反花座の形式としては確立している。規格的にも大型の宝篋印塔を造立することがなくなり、大きさも一定になることにより、基礎を納める台座としての反花座は、その蓮弁の設置数も規格化されていったとみるべきであろう。

(2) 笠

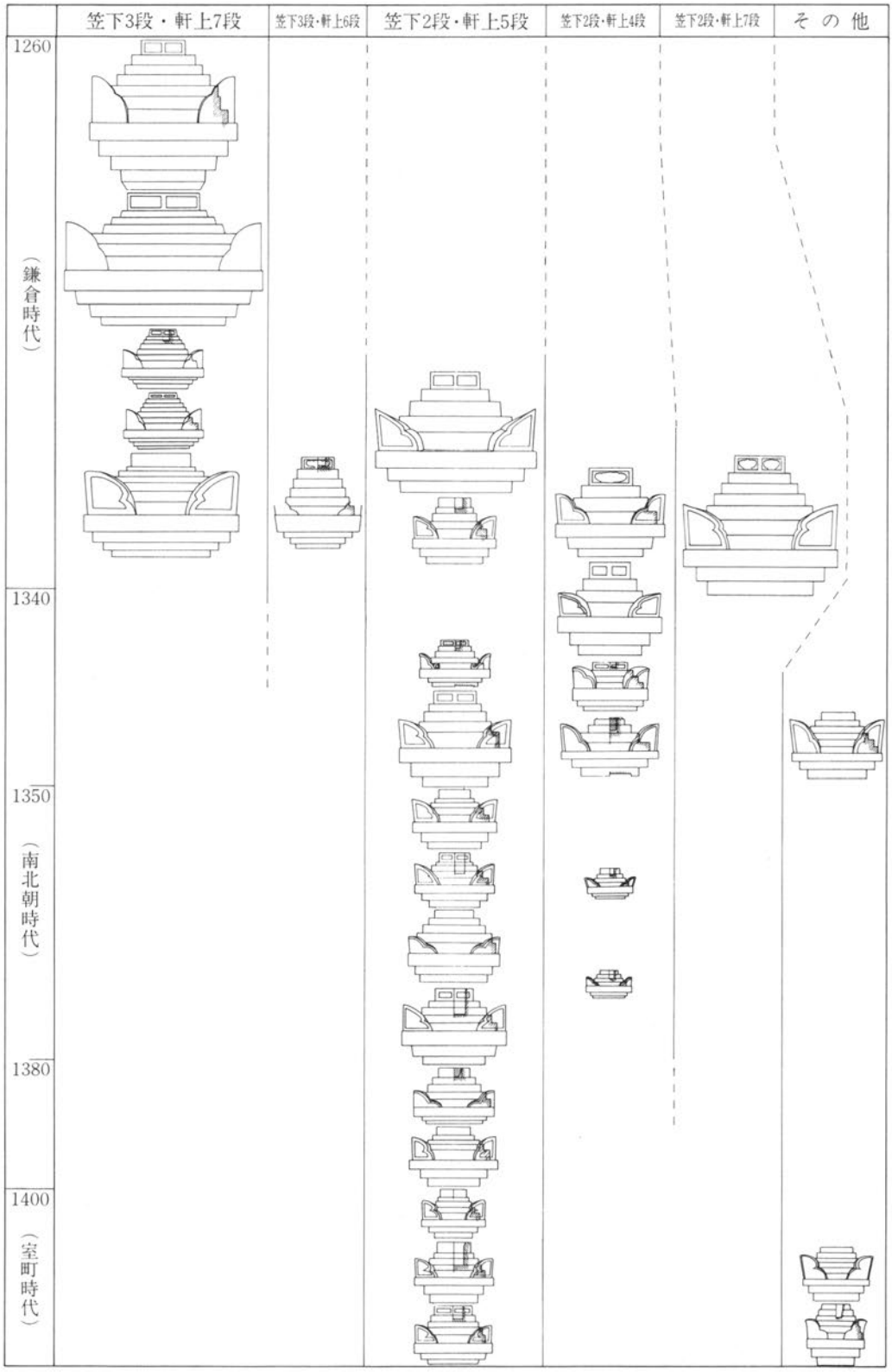
宝篋印塔の部材のなかで最も特徴的な形状である笠について、時代的変遷についてみてみた

い(第5図)。部材からすれば、塔身を守る屋根（笠）の位置を占める。

着目した部位は、笠下の段数と軒上から露盤に至る部分の段数である。段数により、石塔の全体的なバランスが保たれ、その系統が垣間見られのである。なお、露盤は、輪郭を巻いてい



第4図　宝篋印塔・反花座の時代的変遷(縮尺1/40)



第5図　宝篋印塔・笠の時代的変遷（縮尺1/40）

たり、石塔によっては、その内側に格狭間を刻出してひとつの部位とさせる場合もあるが、塔形からすれば笠材の段形のひとつと考えられる。まず、大きくは笠下の段形は3段のものと2段のものとに分けられる。前者の場合は、比較的古い様相として捉えることができ、元徳4(1332)年以降は見当たらない。また、後者の場合は、徳治3(1308)年が初現であり、その後、近世の宝篋印塔まで続く。

軒上の段数は、4段から7段まである。段数が多いということは造塔上どのようなことであろうか。視覚的にみれば、相輪に至る流れが重厚さをもち、また、段形数が少ないとシンプルさを示されるのではないだろうか。

第5図で示すように、軒上7段は当初より認められ、1320年代にはすべての段数が示されるようになる。1340年代以降になると笠下2段・軒上5段の形式が主流となる。規模的にも小型化の傾向を示すが、この形式が脈々と継承される。しかし、笠下2段・軒上4段、あるいは軒上6段もわずかながら散見する。

ここで指摘できるのは、関東型式の宝篋印塔にあっては、初現後、笠下3段・軒上7段の段形をもつ石塔が1320年代の段階で各部位がきわめてバライティに富んだ様相を示したが、その後の爆発的造立数の増加時には、笠下2段・軒上5段の宝篋印塔にまとめられ、塔形としても形成されていったことが推察される。

5．石塔婆の時代的変遷

ここでは、宝篋印塔、五輪塔、板碑と中世を代表する石塔婆を同一縮尺（1/40)で掲図し、13世紀から16世紀の変遷の中で概観してみたい（第6、7図)。

各々の石塔婆の初現をみると、宝篋印塔は鎌倉市内やぐら出土の宝治2(1248)年銘塔、それに関東では、茨城県の宝篋山塔(弘長期）が続く。

五輪塔は、岩手県中尊寺の仁安4(1169)年銘塔が初現であり、それに続いて掲図してある大分県中尾の嘉応2(1170)年銘塔がある。

板碑は、埼玉県江南村須賀広の嘉禄3(1227)年銘の弥陀三尊板碑が現在では最も古い紀年銘をもつ。

それぞれの石塔婆であるが、初現は各々かなりの差をもつ。しかし、13世紀の後半に至ると造立数も増えていき、14世紀初めになると規模も大きくなり、塔形としても確立されるようになる。

板碑は、1360年前後のピークに向けて爆発的に造立数が増えていくが、宝篋印塔は1410年頃を最高基数として造立数を増やす。規模も14世紀前半に比べ、小型化していく。板碑は追善供

養を主体としていたが逆修が一般化する。15世紀に至ると、造立数が急減する。

15世紀中頃より後半にかけて宝篋印塔、五輪塔は極めて少ない。

板碑は、15世紀中頃より規格化され、小形の板碑となっていく。16世紀に至ると絶対的造立数は少ないままであるが、宝篋印塔、五輪塔はそれぞれの地方の在地の石材を用いた石塔婆として発達する。板碑は1600年頃には造立されなくなる。

宝篋印塔、五輪塔、板碑の造立について、埼玉県下で実施された中世寺院跡の詳細分布調査の中で報告されているので、引用したい[21]。まず、調査成果として以下のような結果である。

1　中世に編年される石塔婆が境内より確認された中世寺院は、総数2,306ヶ所のうち1,035ヶ所(45%)である。

2　宝篋印塔を確認した寺院は、209ヶ所で全体の約9%であり、その総基数は481基で1寺院あたり平均して2.3基である。

3　五輪塔を確認した寺院は、235ヶ所で全体の約10%であり、その総基数は396基で1寺院あたり平均して1.6基である。

4　板碑を確認した寺院は、911ヶ所で全体の約40%であり、その総基数は7,102基で1寺院あたり平均して8.6基である。

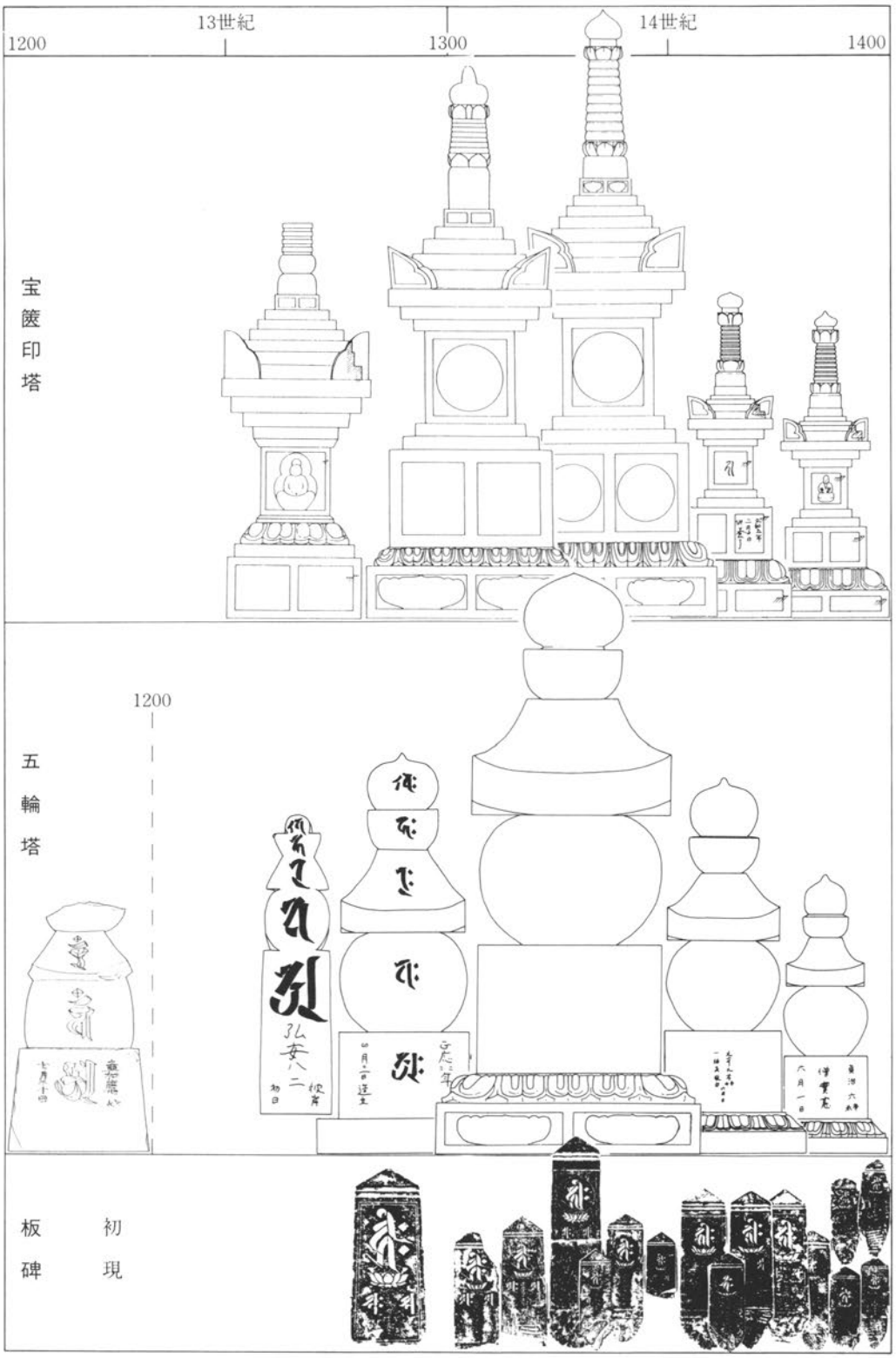
以上を含んだ上で、造立基数で捉えると宝篋印塔の全体に占める率は6%、五輪塔は5%、板碑は89%である。

これを、在銘資料で造立基数を捉えると以下の第2表になる。

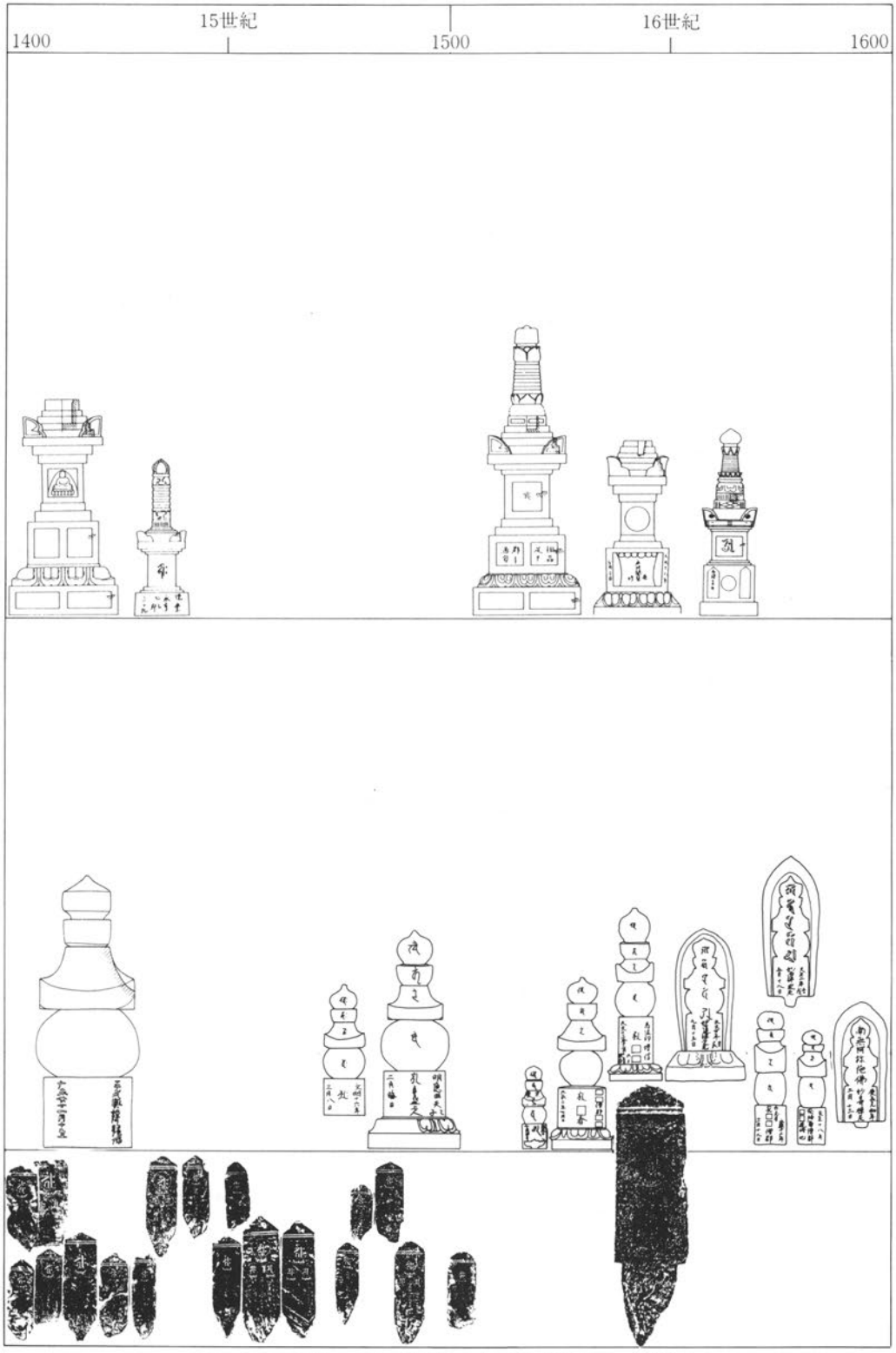
塔形／県別	宝篋印塔	五輪塔	板　碑	合計基数
埼玉県 (註22)	314基 (3%)	130基 (1.3%)	9,757基 (95.7%)	10,201基
群馬県 (註23)	491基 (19.4%)	210基 (8.2%)	1,836基 (72.4%)	2,537基

第2表　在銘資料よりみた、石塔婆造立基数の百分率

これらの資料に基づき、各石塔婆の中世における在り方を推察するならば、在銘資料として把握されている形よりも、無作為に悉皆的に調査された、埼玉県内の中世寺院跡の詳細分布調査[24]の成果を尊重したい。すなわち、板碑は極めて卓越した造立であるが、宝篋印塔と五輪塔はほぼ同様な造立基数であったと思われる。変遷の上では、まず板碑が先行し、その後宝篋印塔、続いて五輪塔が造立されていったと考えられる。



第6図　形態でみる石塔婆の時代的推移(13・14世紀)



第７図　形態でみる石塔婆の時代的推移（15･16世紀）

おわりに

前稿も含め、宝篋印塔という石塔婆から中世の葬制・墓制を考えてきた。現在のいろいろな論調の中で石塔婆を石造美術的にみるあまり、建立場所の調査がおざなりになっているのではないかという指摘がある[25]。それは、考古学を学び、多くの発掘調査を実施してきた私にとって常に気になることであった。我々が遺跡調査をしていると、明確に機能が確定できる遺構より、性格不明の遺構が多い。埋没状態や、伴出遺物、形状、規模、規格により、民俗例を参考にしながら理化学的な分析手法も併用して機能を推定考察するものである。特に土坑については、その語彙の示すとおり全く性格、機能不明で総称しているわけで、調査手法も平面形を確認した上で微細なる埋入物にも注意しながら調査を実施する。

機能上、明確に墓坑や採掘坑、貯蔵庫と推定できるものもあるが、単独か群として構成されているか、全域を精査した上で、位置付けを明確にできることもある。

遺跡に確認トレンチを設定し、表土を除去したのち極めて浅い面で骨蔵器を確認することがある。その骨蔵器にはどのような施設が設けられていたのか、地上に土盛があったのかどうか、板塔婆があるいは建てられていたのか、墓地であるということは、地上に標識をどのような形態で設置していたのか、調査成果を越えていろいろ推察することが常であった。

宝篋印塔は供養塔婆なのであるから、供養のために造立されたものである。中世の人々の日常的な信仰生活の中にあって、供養塔婆を造立しようと発願するには何らかの動機が必要である。無意味に造立するものではない。その動機と思われるものを推察するには銘文しかないであろう。しかし、石塔に刻まれた銘文は前述したように造立者のすべての宗教的行為や心情が語られているものではない。きわめて限定された一面を示すに過ぎないであろう。後世に伝えるため、作善としての位置づけを記録したいため、刻むべき事柄は大変多かったに違いない。盛り込まれる事柄は限定せざるを得なかったのであろう。この宝篋印塔をもって、歴史叙述の史料としようとするとき、それはあまりにも限定性のある史料であることを認識していなければならない。

考えるに、葬は単なる墓の調査や成果では復元できることではない。中世の人々の集落や居住形態や信仰の生活から石塔婆を解明することも私に科せられた課題であると考えている。

註

(1) 千々和到「上行寺と上行寺周辺の中世資料」『三浦古文化』第40号　1986

千々和到氏には著書の贈呈をうけ、大変啓発されることが多かった。また、氏に紹介の労をとられた、吉野弘子氏（旧姓紀井）には、当時同じ職場で共に指定文化財の調査、保護に奔走した同僚としても感謝の気持ちが絶えない。

(2) 埼玉県『新編埼玉県史』資料編９　中世５　金石文・奥書　1989

(3) 拙稿「関東型式宝篋印塔の研究」『研究紀要』10　（財）千葉県文化財センター　1986

(4) 有元修一「埼玉県」『板碑の総合研究２　地域編』1983

(5) 埼玉県立博物館『板碑』特別展図録　1982

(6) 群馬県『群馬県史　資料篇８中世４』1988

(7) 近藤義雄「遺物と中世の信仰」『群馬県史　資料篇８中世４』1988

(8) 註２及び註６に同じ

(9) 坂誥秀一「板碑石材採掘地の調査」『立正大学北埼玉地域研究センター年報』第15号　1992

(10) 畑野経夫『重要文化財安養院宝篋印塔保存修理工事報告書』1980

(11) 註10に同じ

(12) 川勝政太郎「関東形式宝篋印塔の成立」『鎌倉』第４号　1960

(13) 群馬県『群馬県史　資料篇８中世４』1988　157頁

(14) 註13に同じ158頁

(15) 註４に同じ

(16) 三浦勝男他『鎌倉の宝篋印塔』鎌倉国宝館図録第22集　1978

(17) 川勝政太郎「大蔵派石大工と関係遺品」『史迹と美術』第449号　1974

(18) 註８に同じ

(19) 註12に同じ

(20) 註12に同じ

(21) 埼玉県立歴史資料館『埼玉の中世寺院跡』1993

旧版の『埼玉県史』、『新編武蔵風土記稿』に記載された中世寺院跡を抜き出し、それらを参考に昭和58年度から４ヵ年計画で『埼玉県寺院跡調査』、昭和63年度から平成３年度まで、『中世寺院跡調査』を実施した。石造物の埼玉県下の悉皆調査である。石塔婆については移動の可能のものであり、あるいは寺院に集められた可能性も高いと指摘している。

(22) 註２に同じ、なお、板碑に関しては註５に同じ

(23) 註８に同じ

(24) 註21に同じ

(25) 坂誥秀一他「中世の石塔と葬制」『仏教考古学講座』第Ｉ巻付録　1971

※第６、７図作成に関しては、下記の文献を引用した。

・宝篋印塔　拙稿「関東型式宝篋印塔の研究」『研究紀要』10　(財)千葉県文化財センター　1986

・五輪塔　(財)大和文化財保存会『奈良県史蹟勝地調査會報告書第II回』1914

坪井良平「山城木津惣墓墓標の研究」『考古学』第10巻第6号　1939
望月薫弘「千葉市内の五輪塔調査報告」『千葉市文化財調査報告第1集』1976
鈴木　武「摩耶山の一石五輪塔群資料」『歴史考古学』第9号　1982
・板碑　青梅市教育委員会『青梅市の板碑』1980

（千葉県立房総のむら普及課）

宝篋印塔資料集（補遺）

番号	西暦	紀年銘	所在地	所有者	銘文
1	1338	建武五年	南埼玉郡白岡町白岡961	興善寺	覚□□□」□□□□
2	1345	康永四年」正月十九日	上尾市平方領領家785	清真寺	
3	1348	貞和第四戌子」十月上旬	入間郡日高町高麗本郷	高麗本郷	□□宝塔」比丘□□立
4	1349	貞和五」年己丑五」月四日	比企郡小川町下里1857	大聖寺	日本國武州比」企郡下里郷大」聖庵為逆修貞」吉之寶篋印塔」一基所立如件
5	1351	観応二年大才辛卯十月十八日	深谷市大谷632	小林一雄	□□弥□仏～」比丘尼妙□
6	1353	文和二」六月日	鴨川市平塚	大山寺	一結衆」敬白
7	1354	文和三年甲午」□月□□	深谷市西島203	瑠璃光寺	□十八」律師宝賢
8	〃	文和三年甲午」八月廿三日	行田市下忍2455-2	明光寺	□寺開山」有覚侍者　〔笠部に宝篋印陀羅尼〕
9	1356	延文□」八月廿四日	北埼玉郡騎西町鴻茎1952	寿昌寺	
10	1357	延文二年八月三日	深谷市人見1404	浅間神社	夫以真如海中絶」生佛仮名然則」殊以貴釈尊金～大施主大夫四郎家守」敬白逆修　〔光明真言〕
11	〃	延文二年」十月廿九日	南埼玉郡白岡町白岡961	興善寺	□□□」□逆修也
12	〃	延文貳年」丁酉」□月十六日	〃	〃	□」覚実禅門」□修」□□」界有情」同円種」智者
13	1358	延文三年戊戌」二月廿八日	大里郡花園町荒川153	金井慶之	右志者為」勧進比丘」結縁諸壇」施主孝行」只芥子納」須弥園城」樹木素不」委毛端入」大海不痛」
14	〃	延文三年二月日	大里郡寄居町藤田249	極楽寺	右志者為勧」進比丘并結」縁諸壇施主」孝行只芥子」納須弥園城」樹木素不委」毛端入大海」
15	〃	延文三年戊戌」卯月廿六日	大里郡花園町荒川153	金井慶之	以癡迷故」法性変作」無明□諸」顚倒善不」善等如寒」□□水寛」作堅水又」如眠来有」種種匚」
16	〃	延文三年戊戌」卯月廿六日	大里郡岡部町針ケ谷1324	弘光寺	為□摩羅」弥□□□」□□□内」唯□唯我」和□密□」邪見即心」右造立之」旨趣者為」
17	1360	延文五庚子」卯月日	鴻巣市箕田2034	宝持寺	為律師弁祐」□修敬白
18	〃	延文五」十二月廿日	入間郡毛呂山町大谷木609	村本浩一	十方佛土中」唯有一乗法」無二亦無三」除佛方便説」大和守入道禅」結衆十六人
19	1361	延文六年辛」丑八月時正	行田市小見1125	真観寺	沙弥善性」禅門逆修〔光明真言〕
20	1362	康安二年」二月六日	〃	〃	国阿弥陀」佛閉眼
21	〃	康安二年十月」廿八日	児玉郡神川町関口400	幸春寺	右造立意趣」者為」西念禅門也
22	〃	康安二年十一月日	大里郡妻沼町日向607	増田順一	覚阿」国阿」往阿」覚恵」来阿」智阿」宣阿」明頓」妙寿□□□阿」～
23	1365	貞治二二」年二月	秩父郡皆野町三沢	神楽場曲木	
24	〃	貞治」乙巳六」月五日	飯能市中居100	宝蔵寺	□□□照」禅門
26	1366	貞治五年丙午」五月十八日	坂戸市塚越567	西光寺	古牛和尚
26	〃	貞治五」年」五月二十	朝霞市岡2-5-56	本仙寺	歿故」契恩」禅尼
27	〃	貞治五年」五月□日	〃	〃	□□□」□□□」□
28	〃	貞治五年」丙午九月十日	川越市笠幡4451	延命寺	大興開山元」二邊公和尚
29	〃	貞治五年」□月」□月	上尾市畔吉	太子堂墓地	敬白」右志意」趣者」沙弥徳阿」弥逆修
30	1367	貞治六年丁未」二月十一日	児玉郡上里町大御堂1151	吉祥院	道□
31	〃	貞治六年丁未」二月」□□	〃	〃	地□禅尼」[　　]」逆修」□□作善也
32	〃	貞治丁未」八月時正	南埼玉郡宮代町東410	西光院	逆修沙門聖幸」奉造立逆修聖幸

33	1367	貞治」六年」十一月」日	秩父郡長瀞町野上下郷2868	洞昌院	右造」立塔」者為」妙喜」禅尼」逆修」也乃」法界」衆生」平等」利益
34	1362～68	貞治□□」□□月日	北埼玉郡川里村屈巣2147	円通寺	□□□～
35	1368	応安元戊申」六十七日	北埼玉郡騎西町根小屋485	金剛院	万年」大禅定□
36	〃	応安元戊申」十月十二日	久喜市上清久673	常徳院	
37	1369	応安二年卯月	北埼玉郡騎西町日出安1286	保寧寺	奉謹造立」石塔一基」光阿禅門逆修
38	〃	応安二」季五月□	児玉郡上里町大御堂1151	吉祥院	□」十□人
39	〃	応安二年己□」七月十三日	児玉郡児玉町秋山1123	日輪寺	光□法印□□
40	〃	応安二年」己酉七月廿八日	大里郡江南町塩420	常安寺	右志者為」過去栄寿」聖霊相当」第四十九日」出離生死」頓証菩提」乃至法界～
41	1370	応安三年庚戌二月時正	比企郡川島町中山1198	金剛寺	結縁同心一衆敬白
42	〃	応安三年」十二月廿日	児玉郡児玉町金屋883	淵龍寺	明照大」禅定尼
43	1371	応安四年辛亥三月四日	児玉郡上里町大御堂1151	吉祥院	逆修比丘尼」妙仙
44	1373	応安六年癸丑三月日	比企郡吉見町大串2044	金蔵院	長□」□□」天□」□□」上□」□□」如□」天□」明□」□□　～
45	〃	応安六年癸寅」卯月十日	秩父郡長瀞町本野上40-1	多宝寺	逆修　〔光明真言〕
46	〃	応安六□」癸丑十月日	浦和市大久保領家	薬師堂墓地	権僧都
47	〃	応安六年十月	大里郡寄居町富田	福王寺跡	代別当」重円良賢能智」良慶頼有慈慶」祐弁守東明観」祖源良円清弁」良安宗弁
48	1374	応安七年甲寅」八月十三日	大里郡妻沼町妻沼1706-1	妻沼町教育委員会	右志者為往時」一結及出家在」家現世安穏後生」善所将亦先亡聖」霊成仏得道□
49	〃	応安七年甲寅八月」日	上福岡市長宮1-2-11	市立資料館	光阿禅門」逆修
50	〃	応安七□」十月十日	大里郡寄居町桜沢	深田家墓地	□□」明大」明□」文友」□□」□」甑□」道□」□」□□」□
51	〃	応安七年」十一月元日	鴻巣市登戸378	勝願寺	祐重」逆修
52	1375	応安八年乙卯」八月廿二日	比企郡都幾川村西平386	慈光寺	願以此功徳」普及於一切」我等与衆生」皆共成仏道」阿闍梨金剛」仏子常円逆修
53	1368～75	応安第□	児玉郡美里町駒衣330	智徳寺	
54	1375	永和元年乙卯」八月」時正日	比企郡鳩山町大豆戸340	真光寺	奉三宝弟」子道用妙」性預修善」因欲資□」途造立□」篋印塔一」基云
55	〃	永和元」十二月十一日	志木市上宗岡2-2-30	千光寺	
56	1376	永和二年」三月十五□	北埼玉郡騎西町鴻茎1952	寿昌寺	前□□□」元染大和□
57	〃	永和丙辰卯月日	富士見市東大久保	観音寺墓地	逆修奉」造立石」塔一基」宝寿禅尼
58	〃	永和二年丙辰」十月」日	北埼玉郡騎西町道地1570	成就院	敬白」一結衆廿八人〔光明真言〕
59	〃	永和二年十一月日	比企郡吉見町大串2044	金蔵院	沙弥隆保　〔光明真言〕
60	1377	永和三」年丁巳」二月」八日	久喜市江面864	善徳寺	
61	〃	永和三年」丁巳三月	大里郡川本町本田1831	称名寺	歿故中書」畠山殿善」正大善定」門之尊霊　〔光明真言〕
62	〃	永和三年」五月十八日	児玉郡上里町大御堂1151	吉祥院	□松禅尼　〔光明真言〕
63	〃	永和三丁巳」六月卅日	羽生市南321	富田勝治	徳代禅尼
64	〃	永和三年」七月二日	浦和市関167	東福寺	有久逆修
65	〃	永和三年丁巳」八月時正日	北埼玉郡騎西町鴻茎1952	寿昌寺	一会結衆」若干有之」右志趣者」為逆修也」□法王等誌也
66	〃	永和丁巳」十一月十六日	坂戸市塚越567	西光寺	□教」禅門」宗教」禅門
67	1378	永和戊午」正月二日	岩槻市鹿室	小島一也	内佛房
68	〃	永和二二年正月」□日	北埼玉郡騎西町根小屋485	金剛院	逝去明通
69	〃	永和二二年」二月二十四日	北葛飾郡鷲宮町上内1282	寿徳寺	円審高山」雲公禅定」門示寂日

70	1379	永和五年己未」二月日□観	所沢市山口408	端岩寺	若有聞法者」願念禅門」無一不成仏」応無所住」□妙禅尼」而生其心」一稱南無
71	〃	永和五年」六月廿九日	熊谷市大麻生1100	正光寺	□□笠□」□□大□
72	1375～79	永和□	所沢市所沢町	金毘羅宮	前住仁林和尚
73	1380	康暦二季」卯月十八日	児玉郡上里町大御堂1151	吉祥院	妙円禅尼　〔光明真言〕
74	1381	康暦三年四月」廿二日	秩父郡皆野町三沢	神楽場曲木	徳屋禅尼
75	〃	永徳元年」辛酉」文月十六日	鴻巣市常光1644	西福寺	聰聰大徳
76	〃	永徳元」八月二日	熊谷市川原明戸216	明導寺	性音禅門
77	〃	永徳九月辛酉廿一日	大里郡寄居町桜沢1297	大沢新太郎	契芳禅尼位
78	〃	永徳元年辛酉」十月廿七日	児玉郡上里町大御堂1151	吉祥院	本覚」弘阿
79	1382	永徳二年癸壬戌十一月十九日	秩父郡長瀞町中野上472	萬福寺	右意趣者為」伝燈大阿闍」梨秀　逆修」七分全得及四」思法界三界六」道平等利　〔光明真言〕
80	1383	永徳三六月十三日	所沢市山口408	端岩寺	帰実禅門　〔光明真言〕
81	〃	永徳三年」□□三日	飯能市白子260	長念寺	
82	〃	永徳三年」十月廿日	入間郡日高町横手667	大川戸　洋	道禅」逆修
83	1384	永徳四年」正月十日	上福岡市中福岡348	薬王寺	三界□作」□阿」一心本□
84	〃	至徳改元」五月廿日	富士見市下南畑	蔵福寺墓地	雲章□□」書記大□
85	〃	至徳元年」甲子壬九月十五□	入間郡越生町黒岩	五大尊	妙昌禅」定尼
86	〃	至徳甲子十月日	飯能市川寺688	願成寺	預造此塔已」結良因生前」道智将来佛身　〔光明真言〕
87	1385	至徳二年」□月十六日	大里郡寄居町桜沢1297	大沢新太郎	
88	1386	至徳三年」三月五日	飯能市中山520	智観寺	藤氏禅」観禅尼　〔光明真言〕
89	〃	至徳三年」六月初生日	入間郡名栗村上名栗2852	円正寺	若人欲了知」三世一切仏」応当如是観」心造諸如来」諸行無常」是生滅法」～
90	〃	至徳三年」丙寅八月二十四日	飯能市白子260	長念寺	道賢
91	〃	至徳三年」丙寅八月二十四日	〃	〃	清夢一」公禅師
92	〃	至徳三年」丙寅八月二十四日	〃	〃	性善
93	〃	至徳三年」丙寅八月二十四日	〃	〃	道願
94	1387	至徳四年」二月」廿八日	〃	〃	□□□
95	〃	至徳四年」二月」廿八日	〃	〃	玄椿
96	〃	至徳四年」二月廿九日	〃	〃	霊用尼
97	〃	至徳四年」二月」□□	〃	〃	道円
98	〃	至徳四年」八月七日	〃	〃	□□□
99	〃	至徳四年丁卯十一月十八日	秩父郡東秩父村御堂362	浄蓮寺	□□□□」□□□□」実□□□」□盛盛□」有□」結衆在人」五十人」敬白
100	〃	至徳四□」十一月十□	児玉郡美里町阿那志532	光勝寺	奉造立□」修塔□□」明□□　〔光明真言〕
101	1384～87	至徳□□」二月廿九日	飯能市白子260	長念寺	宗久禅□
102	1388	嘉慶二年」三月廿三日	児玉郡上里町大御堂1151	吉祥院	日宜
103	〃	嘉慶二年戊辰」四月廿五日	入間郡日高町横手79-1	滝泉寺	右意趣者」一結諸衆□」心合力逆修」作禅□滅罪」諸衆」敬白
104	〃	嘉慶二年戊辰」十月　日	南埼玉郡菖蒲町菖蒲655	吉祥院	
105	〃	嘉慶二年」十一月六日	比企郡滑川町福田1169	真福寺	願主幸珍
106	〃	嘉慶二年」□□	北足立郡吹上町下忍3144-1	千手院	□□」□□」逆修
107	1389	嘉慶三年己巳」二月時正	大里郡岡部町針ケ谷515	井上秀夫	了徳禅尼　〔光明真言〕
108	〃	嘉慶三年」□月廿九日	大里郡花園町武蔵野1859-1	常光寺	沙弥帝道」生年五十二
109	〃	嘉慶三年己巳」三月日	児玉郡上里町大御堂1151	吉祥院	□逆修善根」□□卒塔婆」仍自他頓証」菩提妙果耳

110	1389	嘉慶三」年卯月」廿五日	北埼玉郡川里町屈巣4482	荒井隆吉	右伏以」右伏」大日」周遍之」覓躰」衆生成」佛之」直路也」因茲」真俗結」衆奉」造立供」養者也
111	〃	康応元暦」林鐘十三日	大宮市高鼻2-1-2	市立博物館	伏惟為逆修」善根奉造立」塔婆實依此」功勲真俗一」結衆証領菩」提速到波羅
112	〃	嘉慶三年己巳」七月廿五日	児玉郡美里町小茂田350	勝輪寺	□□妙□
113	〃	康応元年己巳」八月廿六日	加須市南篠崎	成就院跡	右意趣者逆」修契約衆為末」来作仏奉造」法界妙体所也」依之七分全得」之花施
114	〃	康応元年己巳」十月日	入間市宮寺489	西勝院	奉十三部経」書写読誦」石塔一本
115	〃	康応元己□」十月　日	羽生市東5-7-1	天神社	十三部経之」一結之諸衆 〔光明真言〕
116	〃	康応元年己巳」十一月廿六日	北埼玉郡騎西町上崎1890	龍興寺	光明遍照」十方世界」念佛衆生」接取不捨」右意趣者為」一結衆逆修奉」塔婆造
117	〃	康応元年己巳」□廿六日	岩槻市浮谷2677	西光院	十三部経逆修」善根之諸衆」敬白 〔光明真言〕
118	1390	康応二年三月	羽生市上川俣1371	斎藤二三男	逆修妙春
119	〃	明徳元庚午十月	児玉郡神川町二の宮687	大光普照寺	逆修」法印権大僧□」心　源
120	1391	明徳二」辛未仲春九日	比企郡滑川町福田1169	真福寺	一霊不昧」廻出生死」之昏衢」八識眠照」契春禅尼」踏八正菩」堤之跌蒼」～
121	〃	明徳二年二月時正	荒川区町屋４丁目15		妙善」□□□□
122	〃	明徳二□」八月時正	児玉郡美里町下茂田350	勝輪寺	逆修」好嘉
123	1392	明徳三年壬申」三月廿日	児玉郡神川町二の宮687	大光普照寺	逆修」権少僧都心運
124	〃	明徳三年」十月廿一日	上尾市大谷本郷	八雲神社	寛厳妙公」禅定尼
125	1393	明徳四年癸酉」正月十八日	大宮市大和田町1-1793	細沼初次	
126	〃	明徳四年」四月廿二日	上尾市大谷本郷	八雲神社	雲岳龍」禅定門
127	1394	明徳五年甲戌」□月七日	深谷市国済寺521-1	国済寺	
128	〃	明徳五」甲戌年二」月六日	北足立郡伊奈町小室	小貝戸共有墓地	法慶大」師霊成」仏関道
129	〃	応永元年甲戌」十月一日	入間郡日高町高麗本郷247	長寿寺	敬叟」銀公和尚
130	〃	明徳五年甲戌」十月	秩父郡両神村薄2391	法養寺薬師堂	
131	1395	應永二年」乙亥正月十三日	入間郡毛呂山町小田谷695	長栄寺	慧倫」禅門
132	〃	應永二年乙亥」二月日	鴻巣市原馬室	西光院	逆修阿□禅門
133	〃	應永二年」五月六日	秩父郡両神村薄藤指山居	山居	光岩大□」元密庵主」徳主禅尼
134	1396	應永三年」丙子七月十一日	北埼玉郡川里村屈巣4482	荒井隆吉	夏中経結衆」逆修
135	〃	應永三年丙子」十一月三日	行田市下忍2455-2	明光寺	□□寺殿□□□
136	〃	應永三十一月　日	児玉郡上里町長浜362	上松寺	逆修性訓 〔光明真言〕
137	1397	應永四年丁丑」七月十一日	飯能市岩沢1092	見光寺	前住当山」山一峰和尚
138	〃	應永四」年十月」十五日	富士見市針ケ谷	針ケ谷墓地	□□
139	1398	應永五年戊寅」八月廿七日	大里郡川本町本田2032	教念寺	阿字十方三世佛」大一房」弥字一切諸菩薩」陀字八万諸聖教」三字之中皆共通」
140	〃	應永五年戊寅」八月□□	大里郡花園町荒川153	金井慶之	奉造立」寿塔一所」伏以世楽」法似曇華」其非生前之」預修曷兌死」～
141	〃	應永五戊寅」十一月日	所沢市上安松486	武藤保之助	契玖」禅尼」逆修 〔光明真言〕
142	1399	應永六年己卯」□月十二日	児玉郡神川町新里2022	町田正	玉貞禅門
143	〃	應永六」年十二月」□日	浦和市大間木	弓削田家墓地	□□」阿闍梨
144	1400	應永七年」正月廿四日	南埼玉郡菖蒲町上栢間	正福寺跡	是大行郭」□□道□」□□見如」□□□□」希綱」禅定門
145	〃	广永七年」二月廿二日	羽生市下新郷720	大光院	逆修」妙円禅尼
146	〃	應永」七年」二月」時正	北埼玉郡北川辺町飯積1317-1	大聖寺	性智」禅尼」逆修

147	1400	應永七年」庚辰□月廿五日	児玉郡神川町新宿43-1	石重寺	□律師」永尊
148	〃	應永七年」庚辰六月」十二日	岩槻市岩槻	川の文化資料館	徹菴立」尼」明禅定
149	〃	應永七年」庚辰十一月十五日	児玉郡児玉町上真下	片貝家墓地	成□」妙覚」心□」頼運」頼乗」堯慶」心慶」泉秀」舜円」豪運」快賢」～
150	〃	應永七年」□月□日	児玉郡神川町八日市	森下墓地	聖　□阿」源阿　善阿」定阿　宗阿」蓮阿　稽阿」道俊　精阿」能阿　行阿」
151	1401	應永八年」辛巳壬正月十二日	大里郡寄居町用土272	根岸包房	〔光明真言〕」
152	〃	應永八年」二月吉日	上尾市大谷本郷	八雲神社	功徳主了本　〔光明真言〕
153	〃	應永八年」二月　日	秩父郡皆野町金崎146-1	長興寺	〔光明真言〕
154	〃	應永八年」　辛巳五月十九日	大里郡川本町瀬山398	八幡神社	沙弥浄徳
155	〃	應永八年」五月廿六日	館山市香	野中市郎	□船□」公大□□
156	〃	應永八」辛巳八月日	北埼玉郡騎西町日出安1286	保寧寺	妙□」□円」尊誉」十海」教円」□□」□□」□□」□□」記　治□」良仙～
157	〃	應永八十月十五日	大里郡寄居町富田2024	不動寺	契智　清弁　越中」重□　□仁侍従」契潤　刑部　山城」成珍刑部　父母」
158	1402	應永九」年二月十日	児玉郡上里町大御堂1151	吉祥院	□正
159	〃	應永九□」十月廿三日	蕨市中央6-2-11	明治堂	□□□」道□」禅門
160	〃	應永九年壬午」十二月十五日	児玉郡神川町八日市25	瑞岩寺	□□六十三人」并法界衆生〔光明真言〕
161	1403	應永十年二月日	北埼玉郡騎西町上崎1890	龍興寺	為七分全得□□」□逆修善根□□
162	〃	應永十年」七月十□	北埼玉郡騎西町鴻茎1952	寿昌寺	逆修一会」四部衆
163	〃	應永十年」十一月日	児玉郡児玉町小平554	根岸李太郎	逆修」性□　〔光明真言〕
164	1404	應永十一年二月日」朝幾	北埼玉郡騎西町上崎1890	龍興寺	□七分全得□□」□逆修善根□□
165	〃	應永甲申」八月十三日	上尾市大谷本郷	八雲神社	造立塔婆」一基為」禅照菴主
166	〃	應永十一」甲申八月廿二	羽生市上村君191	避来矢神社	逆修」叡所
167	〃	應永十一年」甲申□月□日	上尾市大谷本郷	八雲神社	□□□」道□禅門
168	〃	應永十二年」八月七日	秩父市番場7-9	少林寺	逆修□」□□都
169	〃	應永」十二年乙酉十二月七日	川口市中青木2-20-31	市史編纂室	光明遍照」十方世界」念佛衆生」摂取不捨」逆修」善根」□□
170	1406	應永十三年三月日	児玉町児玉町吉田林211	西養寺	逆修唯道禅門　〔光明真言〕
171	1407	應永十四年丁亥」三月廿七日	羽生市上村君191	避来矢神社	道栄
172	〃	應永十四年」四月十二日	比企郡嵐山町大蔵559	大沢喜一	唯□」禅門　〔光明真言〕
173	〃	應永十四年」十月廿日	上尾市大谷本郷	八雲神社	預修」昌春禅尼
174	〃	應永十二二年」十月日	児玉郡上里町嘉美610	嘉美神社	一結衆」敬白　〔光明真言〕
175	1408	應永十五年」吉辰二月七日	比企郡鳩山町大豆戸340	真光寺	道阿禅門
176	〃	應永」十五年戊子六月十七日	川口市中青木2-20-31	市史編纂室	長□」開祖」円慶」和尚
177	〃	應永十五年」十月十五日	羽生市下村君2278	永明寺	道本□□　〔光明真言〕
178	1409	應永十六」年己丑五月八日	入間郡越生町成瀬330	見正寺	秀□」禅門
179	〃	應永十六」年」十月廿□□	朝霞市岡2-5-51	本仙寺	□□」逆□
180	1410	應永十七年庚寅」六月一日	児玉郡児玉町小平554	根岸李太郎	沙弥了広　〔光明真言〕
181	〃	應永十」七年八」月日	大宮市高鼻1-343	高橋喜種	右志者為」浄法禅門」逆修右塔」一基然者」此□□者」衆生済度」□□頓証」仏果自然」□依□」
182	1411	應永十八年辛□」四月□	児玉郡上里町大御堂1151	吉祥院	逆修」浄春禅尼　〔光明真言〕
183	〃	應永十八年」十二月十二□	大宮市今羽町106	真福寺	□□□」幸禅門
184	1412	應永十九年壬辰十月廿七日	坂戸市善能寺163	善能寺	永真大師
185	〃	應永十九年」□月日	蕨市中央4-20-9	和楽備神社	逆修」明□」禅尼」七分」全得
186	1413	應永二十」年四月」廿一日	上尾市大谷本郷	八雲神社	仙岩医」公菴主

187	1413	應永二十年□巳」十月日	入間郡越生町黒山	黒山三滝	山本開山」権大僧都」栄円和尚
188	〃	广永二十年」十一月」十一日	北足立郡伊奈町大針1071	浜野　皖	妙秀」禅尼
189	1414	應永二十一年」二月一日	入間郡毛呂山町毛呂本郷244	妙玄寺	本空禅尼
190	〃	應永廿一年甲午」四月　日	深谷市国済寺521-1	国済寺	逆修道音
191	〃	應永廿一年」甲午五月日	入間郡越生町黒山	黒山三滝上	法勝禅門」寿　塔
192	〃	應永廿二」正月」二十	所沢市三ケ島3-1167	宝玉院	永□」□□
193	1415	應永廿二季二月日	坂戸市青木	十王堂墓地	奉造立」石塔一基」右志者為」三界万霊」無主紹魂」□現存結」縁之衆現」世安穏後」生善処也
194	〃	應永廿二年」四月廿日	本庄市西1137	市埋文センタ	塔婆一基」天鬘沙弥〔光明真言〕
195	〃	應永二十二年」八月	大里郡寄居町赤浜620	普光寺	
196	1416	應永廿三年」二月　日	児玉郡上里町大御堂1151	吉祥院	徳円禅門」逆修
197	1419	應永廿六年己亥」卯月十三日	比企郡嵐山町大蔵635	向徳寺	一結衆敬白
198	1420	應永」廿七□	上福岡市川崎	阿弥陀堂	□□□
199	1422	應永廿九」八月日	児玉郡神川町二の宮687	大光普照寺	逆修」討運
200	1414～22	應永廿□年月	児玉郡神川町渡瀬	木の宮神社	
201	〃	應永廿□年月	〃	〃	
202	〃	應永廿□	富士見市水子1765	大応寺	□□
203	1424	广永卅一」十一月日	安房郡三芳村上堀35	勧修院	逆修
204	1425	應永卅二年乙巳」十月日	比企郡鳩山町大豆戸340	真光寺	逆修幸」阿禅門
205	〃	應永卅二年乙巳十二月廿四日	比企郡鳩山町赤沼17	円正寺	勢存侍者
206	〃	□永三十二」□□十一日	岩槻市飯塚1361	法華寺	□衆盛清」□主石塔
207	1426	應永卅三年」□月二日	大里郡寄居町西ノ入649	東光寺	□□一結衆」□俗三十人
208	1427	應永三十四」年丁未六月五日	浦和市中尾	福生寺	元亮」和尚
209	1394～28	應永」□年」三月日	与野市下落合6-13	落合霊園	
210	〃	應永□年」四月廿四日	秩父郡長瀞町本野上40-1	多宝寺	妙□禅尼
211	〃	應永□」六月十六□	川越市古谷上4136	善仲寺	当寺□□」無□□
212	〃	應永□」□月□三日	館山市中里常温寺跡	中里区	妙性」三回忌
213	〃	應永□□月十□日	安房郡天津小湊町清澄322	清澄寺	千光山清澄寺」□□□□」□□□□」□□□□」□□□□」大□主明了
214	1429	正長二年」二月廿日	岩槻市太田265	渡辺一郎	高菴立公大姉
215	〃	正長二年」正月八日	比企郡川島町中山1198	金剛寺	明心妙公
216	1430	正長庚戌」二月五日	南埼玉郡白岡町白岡941	正福院	春岩慶心庵主　〔光明真言〕
217	〃	正長三祀二□」廿八日	所沢市久米1342	永源寺	直山中公庵主
218	〃	正長三」八月　日	鴨川市南小町	路　傍	為□□翁」□禅定門」建之
219	1431	正長四年」三月六日	上尾市畔吉751	徳星寺	開基応峯」感□都寺〔光明真言〕
220	1434	永享六年四月廿七日	深谷市西島203	瑠璃光寺	逆修」性見禅尼
221	1435	永享七年」卯月　日	比企郡鳩山町赤沼17	円正寺	当寺開基」道益首座
222	1436	永享八年二月日	比企郡鳩山町大豆戸340	真光寺	逆修光阿禅門　〔光明真言〕
223	〃	永享八年」六月　日	〃	〃	逆修如永　〔光明真言〕
224	〃	永享八年丙辰」□月十□日	比企郡滑川町福田1205	成安寺	逆修□□□
225	1438	永享十年戊午」四月十四日	秩父郡皆野町金沢1981-1	西光寺	沙弥行□禅門　〔光明真言〕
226	〃	永享十」四月日	浦和市大崎2378	国昌寺	就仏」速成」道」無上」得入」以何令」衆」生」毎自」作是」松正」寿公」禅定□
227	1440	永享十二年六月十九日	深谷市国済寺521-1	国済寺	章益□□庵主
228	〃	永享十二歳八月八日	坂戸市石井2331	大智寺	前任萬壽寺禮堂周公和尚
229	〃	永享」十二年」□申九月日	飯能市井上112	興徳寺	逆修」□□」金公」菴主
230	1441	永享十三年閏九日	本庄市西1137	市埋蔵センター	逆修宗海阿闍梨　〔光明真言〕

231	1429～41	永享□」年十月」五日	浦和市南部領辻2944	惣持院	逆修」作善」一結」衆□
232	1442	嘉吉二年壬戌」十一月十五日	児玉郡神川町二の宮687	大光普照寺	逆修□□亮
233	1443	嘉吉三年七月九	児玉郡児玉町秋山1123	日輪寺	浄玄禅定門
234	〃	嘉吉三年癸亥」□月十八日	秩父市浦山	冠岩	逆修□□
235	1444	文安元」年十月」九日	浦和市三室2458	市立博物館	□□」永金」禅定」尼
236	1445	文安二年乙丑」六月九日	深谷市国済寺521-1	国済寺	光山道盛庵主」逝去
237	1447	文安四年丁□」八月十三日	大里郡寄居町西ノ入649	東光寺	□修性香禅尼
238	〃	文安丁卯八月	比企郡川島町表9	養竹院	諸行無常」是生滅法」生滅々己」寂滅為楽」逆修」妙融大師
239	1448	文安」五年」二月十九日	飯能市山手町5-17	観音寺	道中」□」禅門」逆修
240	1451	宝徳三年」辛未三月」十一日	飯能市小岩井1023	無量寺	□□」禅尼
241	〃	宝徳」三年」□□	〃	〃	慈□」□□」□□
242	1457	康正三年」六月廿一日	川越市古谷上4136	善仲寺	栄公」□庭」大師
243	1455～57	康正」四月	所沢市三ケ島3-1167	宝玉院	□
244	1458	長禄」二年戊寅三月」廿八□	所沢市上安松486	武藤保之助	逆修」徳用」禅門
245	〃	長禄」二年戊寅十一月十九日	朝霞市岡2-5-56	本仙寺	逆修」祥□」禅尼」寿位
246	1461	長禄五年辛巳」正月十□日	比企郡鳩山町赤沼17	円正寺	徳蔵開基」友峯益和尚
247	1462	寛正」三年壬午八月」廿六日	朝霞市岡2-5-56	本仙寺	□仲」理安」大姉」寿位
248	〃	寛正」三壬午年」十二月廿六	所沢市山口408	瑞岩寺	古谿」泉公」禅師
249	1467	応仁元年正月三日	深谷市西島203	瑠璃光寺	権律師□□
250	1468	應仁二」年戊子」十月六日	岩槻市鹿室	小島一也	聞阿」弥陀仏」為□」周忌□
251	1471	文明三年四月	深谷市西島203	瑠璃光寺	律師宝賢五十八
252	1472	文明四年」□月廿四日	深谷市国済寺521-1	国済寺	右精旨物伏」願前住宝林」□渓□和尚」十三□□□□」奉彫□□□」一基矣
253	1475	文明七年□□」五月九日	〃	〃	□林尚□□
254	1476	文明八年丙甲」八月十五日	浦和市大牧586	清泰寺	権少僧都」尊西逆修」賢西大」□西阿」道珍門」浄琢□
255	1477	文明九年丁酉」四月二日	深谷市西島203	瑠璃光寺	願主□□□
256	1478	文明十年	深谷市国済寺521-1	国済寺	
257	1479	文明十一年己亥」九月五日	秩父郡長瀞町中野上472	萬福寺	□修妙□禅尼
258	1483	文明十五年癸卯」八月廿一日	〃	〃	預修功徳主」慶松善女寿位〔光明真言〕
259	1484	文明十六年甲辰」二月廿日	児玉郡児玉町高柳138	三嶋愛宕神社	逆修妙芳」為出離」生死耳
260	1469～87	文明□年□」八月十六日	児玉郡児玉町児玉1258	法養寺	逆修」供養
261	〃	文明□□□」八月廿三日	児玉郡神川町肥土	万日堂	逆修了□禅門
262	1489	長享三年己酉」三月十二日	深谷市国済寺521-1	国済寺	□□□公庵主
263	1495	明応」四年乙卯」□月十六日	所沢市上山口2203	金乗院	祐性」禅門」施主」敬白
264	1497	明応六年」□月廿□日	児玉郡児玉町高柳136	観音寺	大□□林□坐
265	1500	明応」九年□申」□月	富士見市諏訪1丁目	山室地蔵堂	□□
266	1501	文亀元年	大里郡寄居町桜沢628	龍源寺	□□禅門」□□□尼
267	1506	永正三」年　十月」廿一日	安房郡丸山町小戸	清水長夫	逆修」□阿弥
268	1508	永正五天」十月吉日	比企郡川島町表9	養竹院	逆修妙芳
269	1512	永正」九年」壬申二月日	新座市道場1-10-13	法台寺	逆修」道□」禅定門
270	1515	永正十二年」二月廿四日	〃	〃	逆修」妙永」祐禅定□」□□□□□」□□□□～
271	1521	永正十八年」三月十三日	比企郡川島町表9	養竹院	行安霊位
272	1522	大永二」年正月」十六日	〃	〃	養竹」開基」義芳」永賢」庵主
273	1523	大永三年」三月」四日	〃	〃	天章」如祐」大師
274	1524	大永四年甲申」二月□六日	秩父市伊古田675	大林寺	宝□珍□庵主

275	1525	大永五年」二月七日	比企郡川島町表9	養竹院	真竜□用蔵主 ［大日如来報身真言］
276	1531	享禄四年辛卯」四月十□日	〃	〃	□□□妙法」禅尼
277	〃	享禄四年	大里郡寄居町桜沢628	龍源寺	鏡□禅定□
278	1533	天文」二年」六月八日	南埼玉郡白岡町白岡961	興善寺	文道善定」門
279	1536	天文五年丙申」閏十月日	秩父郡長瀞町本野上924	総持寺	大日本国武蔵州」秩父郡白鳥郷」下野村住嶋田」弾正忠□吉」逆修功徳主」渓岫宗泉禅門
280	〃	天文五年十二月	〃	〃	逆修」継芳善女
281	1539	天文八亥年」八月十日	北埼玉郡川里村上会下229	雲祥寺	当山開基」気窓祥瑞大居士
282	1542	天文十一年癸寅	飯能市原市場字金山	長福寺跡	道全」妙性
283	1543	天文十二年十月十二□	本庄市栗崎	島崎貞一	道慶禅門
284	1548	天文十七年	〃	〃	
285	1532～55	天文□	入間郡毛呂山町小田谷695	長栄寺	
286	1557	弘治三年□月日	館山市竹原光堂		□□□□禅定門 （釈迦如来坐像陽刻）
287	1558	永禄元年」八月六日	比企郡鳩山町大豆戸340	真光寺	慶大法師霊位
288	1559	永禄二年己未」□□一日	入間郡越生町黒岩	五大尊	道」宥」禅」門
289	1561	永禄四年」正月	岩槻市本町5-11-46	浄安寺	□□
290	1556～70	永禄□年」七月□日	岩槻市黒谷1292	普慶院	念□□□」禅定門
291	〃	永禄□」　　□日	館山市竹原光堂	光堂墓地	□□□□禅□□ （胎蔵界大日如来坐像）
292	1573	元亀四年二月六日	深谷市田谷308	高台院	掩粧梅室元芳」大姉」孝子」敬白
293	〃	天正元年癸酉」十二月十七日	熊谷市上之336	龍淵寺	自天宗湖居士
294	1575	天正三年三月廿八	深谷市人見1391-1	昌福寺	要山簡公上坐
295	1577	天正五年丁丑」十二月十日	南埼玉郡白岡町白岡961	興善寺	浄圓善定門
296	1578	天正六年戊寅」八月九□	熊谷市久保島1664	大光寺	花□□□春」禅定門
297	1579	天正七年巳卯四月廿六日	大里郡寄居町立原303	東国寺	為帰真梅安」浄香禅定門
298	1583	天正十一癸未」四月□□	児玉郡美里町白石1953	宗清寺	□□□□
299	〃	干時天正十一年」未八月□日	児玉郡児玉町金屋142-1	天龍寺	花□□□禅定尼
300	1584	天正十二」年□□」十月□	入間郡日高町新堀990	聖天院	
301	1585	天正十三年乙酉十一月十七日	北埼玉郡川里村屈巣	桜本坊	為権小僧都」□□」法印宥□」□□也
302	1589	天正己丑六月廿九	深谷市田谷308	高台院	見性妙照大姉」帰真見」性妙照大姉
303	1573～92	天正□年」□月十八日	熊谷市上之336	龍淵寺	□□十□

引用文献　埼玉県『新編埼玉県史』資料編9　中世5　金石文　奥書　1989
早川正司「安房大山寺宝篋印塔とその周辺」『野中徹先生還暦記念論集』1993
荒川区教育委員会『町屋の民俗』荒川区民俗調査報告書（三）1993

1994.3.30作成

※　紀年銘，銘文で」は，行替えを示す。